

# 2018年度プロジェクト報告書 現実感芸術

## 研究担当者

赤松正行、伊村靖子、鈴木宣也、瀬川晃、松井茂

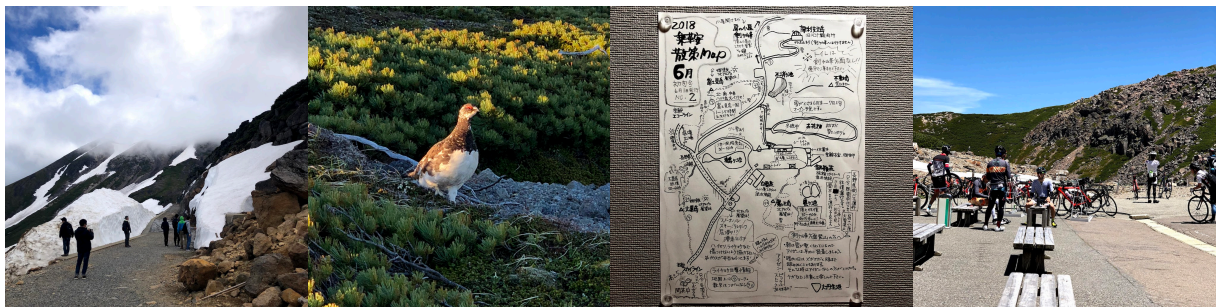
## 研究概要

AR（拡張現実感）やVR（仮想現実感）などの技術を利用して、現実と幻想を融合する表現研究を行った。特にドローンによる空中視点を含む野外における広域AR表現に注目し、プロトタイプを含めて3種類のモバイル・アプリを制作した。これらはアート・イベント「養老アート・ピクニック」で発表した他、今後の中部山岳国立公園での観光事業に活用される予定である。

## 活動概要

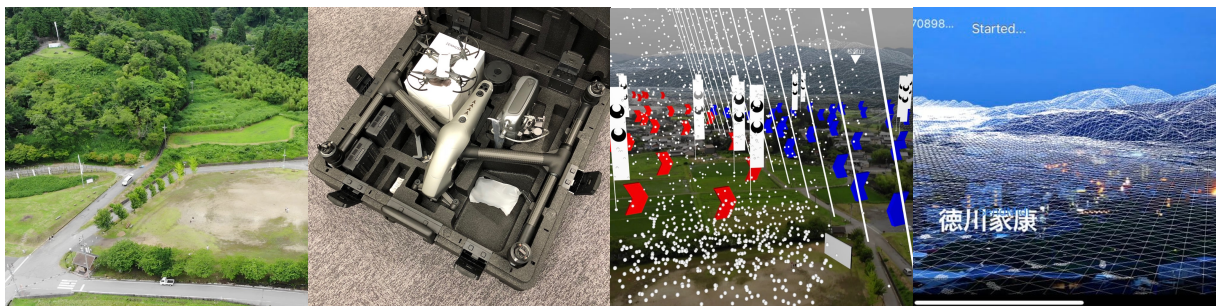
### 1 中部山岳国立公園訪問調査

2018年6月16日から6月17日まで、豊平など中部山岳国立公園を訪問し、観光資源の調査を行った。この調査を元にARやVRによる観光振興事業の展開について議論を行い、今後の研究内容と事業化の提言を行った。



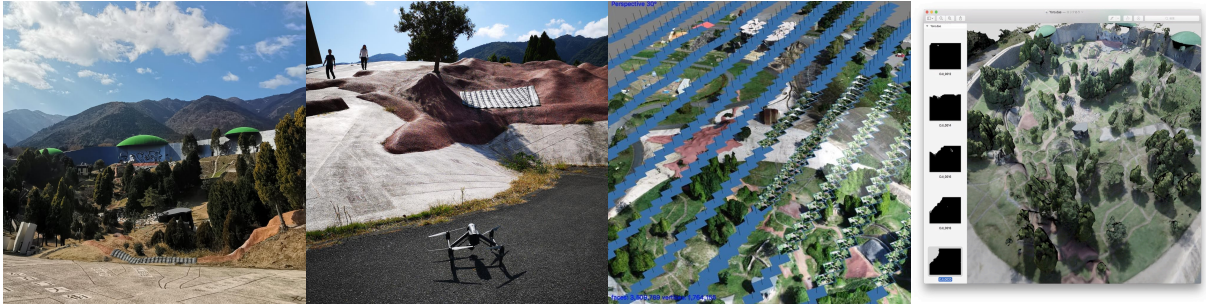
### 2 関ヶ原ドローンAR (iOSアプリ)

ドローンからの空中映像をAR化し、空からの視点で見る風景にコンピュータで生成するイメージを重ねて、現実空間に歴史的な事象を溶け込ませて展開した。一連のシステムは完成したものの、予定されていた発表イベントは諸事情によって中止となった。



### 3 養老天命反転地3Dモデル

養老天命反転地の楕円形のフィールドについて、ドローンによってグリッド状に写真を撮影し、3次元のポイント・クラウドによって3Dモデルを生成した。これにより、建造物だけでなく樹木を含めた現実に近いモデルが得られ、同地AR化の基盤となった。



### 4 養老天命反転AR (iOSアプリ)

荒川修作とマドリン・ギンズによる初期構想を元に、美術家の原田郁が3Dモデルを創作。これを現実の養老天命反転地に重ね、上下反転して対比して鑑賞するツールを制作した。このARアプリは養老アート・ピクニックで発表し、多くの鑑賞者を得た。



### 5 LocAR (iOSアプリ)

データベースと連動するロケーション・ベースの汎用的なARアプリを開発した。カメラ映像にテキスト、2Dイメージ、3Dモデル、サウンドを3次元座標を指定して配置することができる。また、これに合わせて中部山岳国立公園の観光データベースを作成した。

